

分室だより 第22号

平成31(2019)年 1・2・3月号

分室企画展

「練馬区ゆかりの漫画家展—1970年を中心に」

平成31年1月12日(土)～3月30日(土)

漫画家の多いことで有名な練馬区ですが、今回は、1970年前後に焦点を絞り、その時代の練馬区ゆかりの漫画家13名をとりあげ、作品や時代をご紹介します。

1970年前後は、社会の動きとしても、それぞれの漫画家にとっても、ひとつの転機があるように思えるからです。

手塚治虫は、自身が創刊したマンガ雑誌「COM」に「火の鳥」を連載していました。この雑誌には、**松本零士**が、傑作と評せられる「四次元世界シリーズ」を連載、後の作品へとつながる世界を築きます。その**松本零士**と結婚していた、少女漫画家の**牧美也子**の描く少女像は、「リカちゃん」人形の造形の元となり、次第に大人向け劇画へと移行していきます。松本零士と同じ生年月日の**石ノ森章太郎**は「COM」に「章太郎のファンタジーワールド ジュン」を連載。セリフのない前衛的な作品は衝撃を与えました。

当時「COM」と双壁をなした雑誌「ガロ」には、**白土三平**が「カムイ伝」を連載、大学生たちに熱烈に支持されました。

ちばてつやは、高森朝雄原作による「あしたのジョー」を描き、大ヒットしていました。ちばの弟・**ちばあきお**は、「キャプテン」が大好評でした。



手塚治虫「火の鳥」©手塚プロダクション

1970年は、**モンキー・パンチ**の「ルパン三世」がアニメ化直前、**吉沢やすみ**の「ど根性ガエル」の連載が始まった年でもあります。

古谷三敏の「ダメおやじ」の漫画ならではの破壊力や、70年代後半の**高橋留美子**「うる星やつら」、**水木杏子**原作、**いがらしゆみこ**漫画「キャンディ♡キャンディ」の魅力。

竹宮恵子は通称「大泉サロン」と呼ばれるアパートで共同生活を始め、少女漫画家の研鑽の場となったことも大切な事実です。

ペンを握って創作と格闘した13人の漫画家、その熱い時代を、当時の漫画本などの資料で探ります。ぜひご覧ください。

石神井公園ふるさと文化館では館と来館者をつなくサポーターが活動しています。サポーターによるコラムです。

台風の日

サポーター 葛城明彦

昭和中期頃までは、台風が来るたび町は大騒ぎだった。学校は休みか午前授業となり、商店はすべてシャッターを降ろしていたし、民家のほとんどは雨戸を閉め切っていた。

不謹慎な話で恐縮だが、私は子供の時期、そうした非日常的な風景が面白くて、そんな日は一日中カッパを着て外を歩き回ったりしていた。当時は木製電柱がよく倒れていたし、特に近くを流れていた石神井川・貫井川などが氾濫するさまは、まさに「一大スベクタクル」という感じであった。

台風の日には停電になることも多く、夜は家族でひと部屋に籠り、蝋燭を灯して缶詰で夕食を摂ったりした。それも、何だかSF小説『地球最期の日』みたいでワクワクした。

また翌朝、窓を開けると抜けるような青空が広がっていて、一面に美しい日差しが降り注いでいたりするのも、相当に感動的な光景だった。朝日の中、私はいつも水たまりを蹴散らしながら学校に向かっていった。

振り返ってみれば、大人たちはかなり大変だったに違いないのだが、自分にとっては今も楽しい記憶ではない。すべてがまだオンボロで、古びていたあの頃の町の景色とともに、数十年を経て、なお懐かしく思い出されてならないのである。

♪蓄音器コンサート♪

ふるさと文化館には、アメリカ製（ヴィクトロラ社・VV4-40、1927年）の蓄音器が収蔵されています。この蓄音器を生かすべく、戦前・戦後のクラシック、歌謡曲からアメリカのジャズ・ポップスまでのSP盤を、折々に揃えてきました。

この蓄音器とSP盤を使用した「蓄音器コンサート」（年2回予定）では、毎回テーマを決めて、懐かしい音をご来場の方々に楽しんでいただいております。製造後約90年を経ている蓄音器ですが、音楽ファン、蓄音器ファンに末永く楽しんでいただける非常に良い状態を保っています。特に歌声などは、他の装置では味わえない臨場感にあふれています。

「蓄音器コンサート」に関して詳しくは「ねりま区報」、当室のホーム・ページなどで随時お知らせしておりますが、次回は2月3日（日）12:00~13:00に開催します。テーマは「運命」聴きくらべなど。今では出会うことのできない名演奏に蓄音器から出会うことができるのです（それも電気を使わずに！）。是非お誘いあわせの上、お越しください。



今月の作品

『辞書になった男 ケンボー先生と山田先生』

佐々木健一 著 文藝春秋 2014年

二人の辞書編纂者の軌跡を辿った作品。ひとは練馬区ゆかりの国語学者で『三省堂国語辞典』を編纂した「ケンボー先生」こと見坊豪紀、もうひとは『新明解国語辞典』を編纂した山田忠雄。東京帝国大学国文科の同級生である二人が、それぞれ独自の辞書を生み出した道のりが描かれています。前者の見坊豪紀については、11月に分室サポーターによるギャラリートークが行われ、辞書編纂者の熱意・情熱がひしひしと感じられるひとときとなりました。



●分室だより終刊のお知らせ

2014年より5年間発行してきた「分室だより」ですが、2019年4月より、「石神井公園ふるさと文化館ニュース」と統合することとなりました。

お読みいただいた皆様、展覧会やイベントにお越しくくださった皆様、ありがとうございました。「ニュース」もよろしくお願いたします。



SNSのご案内



石神井公園ふるさと文化館・分室ではfacebook・twitter・LINE・HPで、展覧会や館内イベントのご案内をしています!気になるイベントをチェックして是非遊びに来てください!

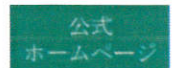
おすすめ情報がいっぱい!
QRコードもしくはURLから見られるよ!
職員一同、ご来場を心よりお待ちしております!



<https://www.facebook.com/furusato.bunka?ref=hl>



https://twitter.com/furusato_nerima



アカウント
@furusato_nerima



<http://www.neribun.or.jp/furusato.html>

【発行・お問い合わせ】

石神井公園ふるさと文化館分室（公益財団法人練馬区文化振興協会） ☎03-5372-2572 / Fax050-3352-2983

〒177-0045 練馬区石神井台 1-33-44 石神井松の風文化公園管理棟内

開室時間：9:00~18:00 休室日：毎週月曜日（月曜が祝休日の場合は翌平日）、年末年始、臨時休室日

【アクセス】

最寄駅：石神井公園駅

西武池袋線（東京メトロ有楽町線、副都心線直通あり）

- ・石神井公園駅西口から徒歩約15分
- ・石神井公園駅北口から西武バス「吉祥寺駅」行き乗車、「石神井郵便局」下車約1分



